

調査報告
一一二一七

Ngram を用いた表記から見た紅梅文庫旧蔵本『源氏物語』の位置付け(2)

—書陵部蔵三条西家本、大正大学本を中心とした写本との比較を通して—

齊藤 鉄也

一 はじめに

本稿では、前稿[3]に引き続き、漢字と仮名の使い分けや仮名遣い、音便といった表記の相違を反映した本文データを用いて、計量的な処理のみで写本を分類した結果を報告する。調査対象とした写本は、紅梅文庫旧蔵本『源氏物語』(以下、紅梅本とする)[1]、日本大学蔵三条西家本(以下、日大本)、書陵部蔵三条西家本(以下、書陵部本)、大正大学本、池田本、大島本の源氏物語の後半部分である「野分」から「夢浮橋」までの二十七帖、計百五十七写本である。

前稿で報告した内容を含む表記の調査結果からは、紅梅本との「距離」が近く、「非常に似ている」と考えられる写本は、日大本と四帖、書陵部本と二帖、保坂本と一帖が存在した。また、紅梅本と「似ている」と考えられる写本として、日大本と二十五帖、書陵部本と五帖、保坂本と六帖、大正大学本と七帖、池田本と二帖、大島本と三帖の存在が明らかとなった。

二 本調査の目的と関連研究

本調査の目的は、計量文献学の手法を用いて、他の源氏物語写本と比較し、紅梅本の本文を位置付けることである。計量文献学は、本文が持つ何らかの特徴を数値に変換し、それに対して統計学の手法を適用する文献学の一領域である。本調査では、稿者が作成した写本本文のデータから生成した文字列の頻度に基づき、紅梅本と、紅梅本の奥書に記されている三条西実隆が関わった日大本を中心とした複数の源氏物語の本文と比較して、紅梅本の本文の相対的な位置付けを明らかにすることを試みた。

同様の手法を用いた本文分類の例としては稿者による[2]がある。その調査では、源氏物語の六帖「空蟬」「花宴」「花散里」「関屋」「篝火」「鈴虫」の全文と、「柏木」の一部を調査対象の写本として選択した。各帖ごとに、本文から五文字の文字列(gram)を生成し、その頻度データを用いて統計分析を行い、写本の分類を試みた。その結果、これまでの青表紙(定家)本系統、河内本系統、別本群といった二系統一群に近い分類結果が得られたが、それらの結果は、書写年代といった書誌情報に関連した分類とはならなかった。

そこで、前稿[3]では、分類結果を考察し易いように、調査対象写本を青表紙本系統とし、書写年代が近く、三条西実隆が関わっている可能性がある写本を中心として選択して、本文を分類した。本稿においても前稿と同様の方法と対象を調査することとした。

三 調査対象とした写本と本文データ

写本間の比較対象に用いた源氏物語の写本は、紅梅本、日大本、書陵部本、大正大学本、池田本、大島本である。これらの写本の後半部分である「野分」から「夢浮橋」までの二十七帖を調査対象とした。

分析に用いた、稿者が作成した本文データは、写本の本行本文を対象に、仮名と漢字、改行位置を同一としている。一音で読む漢字は全て仮名と見做して仮名と漢字を区別している。漢字の異体字は通行化している。本調査で用いた本文データを本論文末の表一にまとめた。表一では、写本名と仮名と漢字の文字数、文字数に占める漢字の割合を別にまとめている。本文データの調査範囲はおおよそ五千文字程度を対象とした。五千字に満たない本文を持つ帖は全文を対象としている。

四 調査方法

前稿^[3]と同様であるので概略を述べる。比較対象とする本文は、写本の本行本文とし、傍記は対象としない。同じ帖の本文のうち、写本間で同一の調査対象範囲を比較する。作成した本文データから次の手順で処理するデータを生成する。(1) 作成した本文データの最初の文字より一文字ずつしながら最後まで長さ五文字の文字列(5gram)を生成する。この文字列は、同じ帖の写本ごとに機械的に生成される。

(2) 帖単位で写本に出現する同一の 5gram の頻度を集計し、これを本文の特徴を表すデータとする。このデータに対して統計手法を用いて分類する。

(3) 集計した5gramの頻度に基づいて写本間の距離を計算する。頻度の差が大きいほど、また異なる種類の文字列が多いほど、写本間の距離は大きくなり、本文の表記が異なることを示す。

(4) この写本間距離に対して、統計手法を用いて分類し可視化する。可視化する統計手法は、「教師情報」と呼ばれる既知の分類結果といった外的徴証が事前に明らかでないデータに対して、データの特徴といった内的徴証だけに基づいて分類する「教師なし分類手法」を用いる。詳細は注にまとめた。

本方法では、仮名と漢字の使い分け、仮名遣い、音便といった同義ではあるが異なる表記を持つ本文は異同と見做し、生成された本文の特徴を表すデータに反映される。つまり、表記の異同により異なる文字列が生成され、本文の相違として扱われ統計処理される。例えば、青表紙本系統の写本の中でも「本文が似ている」と指摘される二つの写本であっても、それらの写本が異なる表記を持つ場合、写本間の距離は遠くなるように計算される。その結果、本調査で作成したデータを用いた写本間距離が近い場合は、本文に加えて、表記まで含めて近いことを示し、写本の本文間に何らかの関係があること、例えば、世代の近い写本関係の可能性を示唆している、と言える。その一方で、写本系統の分類の際に重視される本文異同が、仮名と漢字の使い分けといった大量の表記の相違の中に埋もれてしまう可能性があり、『源氏物語大成』を用いた分類結果とは一致しない可能性もある。

本文を分類する閾値となる距離は、「本文が類似している」との指摘がある写本間の距離に基づいて決定した。その方法は前稿[3]と同様であるので、ここでは概略を述べる。本調査では、本文長が短い写本を用いて閾値を決定していることを考慮し、暫定的に、表記の点から本文が「非常に似ている」と考えられる閾値を0.10より小さい、「似ている」と考えられる閾値を0.00より小さい、とした。これらの閾値は、写本本文の類似性に関して指摘がある写本を対象とした調査結果を用いて、今後、更新される可能性がある。

五 各帖の写本間距離の調査結果と考察

調査対象とした六写本の写本間距離を求め可視化し、写本間距離の閾値を用いて、本文が似ている写本を探索する。各帖の写本間距離を表した図は本稿末に掲載した。ここでは各帖の調査結果を集約した表を作成し、それに基づいて考察を述べる。表二では、本文が「非常に似ている」または「似ている」関係にある写本の帖数を表している。表二では前稿で報告した前半二十七帖の結果も含め、全五十四帖の結果をまとめている。表中の列方向の写本名は、略称として、写本名の先頭文字を省略した一文字を用いて表している。大正大学本の略称として「正」を用いている。表では、前稿[3]で報告した前半の巻も合わせて記載している。

五・一 本文が「非常に似ている」写本

本文が「非常に似ている」と分類される写本を表二の上段にまとめた。今回の調査対象とした源氏物語の後半の写本の中には、紅梅本と本文が「非常に似ている」と分類される写本は存在しなかった。他の写本間で「非常に似ている」と分類された写本は、大正大学本と大島本の「行幸」、大正大学本と書陵部本の「夕霧」だけであった。

暫定的な閾値に基づく分類であるが、これまでの調査結果からは、表記が「非常に似ている」写本は多くは存在しない可能性が高いと考えられる。この表記が「非常に似ている」写本が少ないことは、本手法を用いた調査により、「非常に似ている」距離にある写本群を見つけることができれば、詳細な調査を必要とする写本を絞り込むことができ、それらの写本間に何らかの関係やその理由が存在する可能性がある、と言える。その関係や理由は奥書といった根拠と共に考察する必要があり、本方法では明らかにすることはできないが、調査すべき写本の選択に関しての示唆を得

ることとはできる。また、比較対象となる写本が増加した場合であっても、一連の分類手続きはコンピュータ上の統計処理として「自動化」されているため、調査対象写本を拡大した場合にも対応でき、調査や研究の効率化に寄与する可能性がある、と言える。

五・二 本文が「似ている」写本

本文が「似ている」と分類される写本を表二の下段にまとめた。紅梅本と日大本は、本文が「似ている」関係にある写本は多く、計二十五帖存在する。また、書陵部本、大正大学本、大島本は、互いに「似ている」写本が多く、これら一揃えの三写本の間で全て「似ている」関係にある写本は十一帖存在する。表記の点からの調査では、これらの写本については転写過程において写本の世代が近い可能性を指摘できるが、写本の書写年代といった時間的な前後関係は明らかにすることはできない。このため、本調査結果からは、紅梅本が日大本から転写された可能性も指摘できることになる。また、機械的に「似ている」と判断している閾値を適用しているので、境界線の前後に位置した写本に関しては、その判断が難しい。この点に関しては閾値についての検討が必要である。写本間関係を考察する際には、前稿および本稿末の分類結果図を確認しながら、関係を考察する必要がある、と言える。

六 まとめと今後の課題

今回調査対象とした紅梅本の写本は、奥書によると実隆筆の親本を少なくとも二度転写されているが、表記の点からは、日大本と写本間距離が近い写本が多く、「非常に似ている」または「似ている」帖は計二十九写本存在することが

明らかになった。これらの写本に関しては、現存写本に至るまでの転写の過程を共有する可能性を指摘できる。前稿及び本稿で用いた調査方法は、計量文献学の手法を用いているため、分類の効率化が期待でき、新しく公開された写本の概要の調査することに適していると考えられる。尚、調査においては、暫定的に本文から生成した文字列長や写本間距離の閾値を決定している。このため、「非常に似ている」または「似ている」と判断している閾値に関しては、関係が指摘されている写本を用いた詳細な調査が必要であり、今後の調査によって情報が更新される可能性がある。

表記に着目した写本間距離の調査では、仮名と漢字の区別といった点まで同一でなければ「似ている」と判断できないため、写本系統の分類や同系統内での分類の際に重視される本文異同に基づいた分類結果とは異なる。今回の調査は、表記が異なる本行本文を対象とした、言わば「最も基礎的な」本文の異同に基づいた分類結果である。今後は、仮名と漢字の使い分けといった表記の異同を共通化した本文を用いた調査が課題となる。

謝辞

本研究はJSES 科研費 JP19K00349 の支援により実施された。

注

本文のngramを生成する手法は、本文の先頭文字から五文字ずつ順に本文の断片文字列を生成する。そのため、一文字ずつずれた五文字の本文の断片が以下、調査対象範囲の最後まで順に生成される。文字列の長さに関しては暫定的に五文字と決定した。

本調査では、異なる巻を同一の尺度で比較するため、写本間距離の計算方法には、情報検索の分野で用いられることが多いコサイン(cosine)距離を用いる。コサイン距離は、距離が0から1の間で表される。写本間距離が0の場合は、その本文が同一であることを表す。

互いに近い写本間距離を持つ写本を可視化するために階層的クラスター分析を用いる。階層的クラスター分析では、写本間関係が木構造として表され、互いに写本間距離が近い写本はグループを構成する。本調査では写本のグループの構成方法として、写本間距離が最も遠い距離を群間距離として採用する、最遠距離法を用いる。

出典

調査対象写本は、出版または画像公開された写本を対象としている。特に書名のない写本は源氏物語を表している。

- ・紅梅本(紅梅文庫旧蔵本) 実践女子大学文芸資料研究所上野英子教授より画像を閲覧させていただいた
- ・書陵部本(書陵部蔵三条西家本) 宮内庁書陵部所蔵資料目録・画像公開システム <https://shoryobu.kunaicho.go.jp/Toshoryo/Detail/1000629260000>
- ・大正大学本 大正大学図書館・研究所源氏物語写本 https://tais.ac.jp/library_labo/library/genji/
- ・日本本 日本大学蔵三条西家本) 日本大学蔵源氏物語第一巻～第五巻三条西家証本 八木書店 一九九五
- ・池田本 源氏物語池田本一～五 新天理図書館善本叢書 天理図書館附属天理図書館編 八木書店 二〇一六
- ・大島本 大島本源氏物語第一巻～第五巻 角川書店 一九九六

参考文献

- [1] 上野英子「源氏物語三条西家本の世界―室町時代享受史の一樣相」武蔵野書院 2019
- [2] 齊藤鉄也「仮名の Ngram を用いた源氏物語写本の系統分類の試み」人文科学とコンピュータシンポジウム論文集 Vol.2017 No.1 89-96 (Dec. 2017)
- [3] 齊藤鉄也「Ngram を用いた表記から見た紅梅文庫旧蔵本『源氏物語』の位置付け(1)」実践女子大学文芸資料研究所年報第 39 号 二〇二〇年三月)

巻	紅梅本			書陵部本			大正大学本		
	仮名	漢字	漢字率	仮名	漢字	漢字率	仮名	漢字	漢字率
28-野分	6678	484	6.8%	6725	477	6.6%	6538	563	7.9%
29-行幸	11517	817	6.6%	10961	1038	8.7%	11568	772	6.3%
30-藤袴	5707	494	8.0%	5775	462	7.4%	5620	539	8.8%
31-真木柱	6330	528	7.7%	6144	606	9.0%	6111	632	9.4%
32-梅枝	5374	551	9.3%	5379	609	10.2%	5390	556	9.4%
33-藤裏葉	5369	490	8.4%	5530	412	6.9%	5246	618	10.5%
34-若菜上				5709	531	8.5%	5695	541	8.7%
35-若菜下	5457	585	9.7%	5423	621	10.3%	5513	580	9.5%
36-柏木	5238	382	6.8%	5063	454	8.2%	3259	388	10.6%
37-横笛	5424	443	7.6%	5498	413	7.0%	4767	706	12.9%
38-鈴虫	5803	549	8.6%	5690	601	9.6%	5811	557	8.7%
39-夕霧	5551	412	6.9%	5485	445	7.5%	5382	514	8.7%
40-御法	5846	425	6.8%	5677	508	8.2%	5674	509	8.2%
41-幻	6569	392	5.6%	6423	460	6.7%	6359	514	7.5%
42-匂宮	5720	550	8.8%	5286	744	12.3%	5204	791	13.2%
43-紅梅	5309	460	8.0%	5047	580	10.3%	5177	514	9.0%
44-竹河	5488	536	8.9%	5394	593	9.9%	5018	543	9.8%
45-橋姫	5071	325	6.0%	5068	323	6.0%	5172	279	5.1%
46-椎本	5375	545	9.2%	5439	525	8.8%	5472	500	8.4%
47-総角				5330	463	8.0%	5634	328	5.5%
48-早蕨	7338	583	7.4%	7070	717	9.2%	6619	922	12.2%
49-宿木	5570	528	8.7%	5672	523	8.4%	5720	475	7.7%
50-東屋	5662	431	7.1%	5695	422	6.9%	5587	474	7.8%
51-浮舟	5310	457	7.9%	5323	433	7.5%	5236	476	8.3%
52-蜻蛉	5473	405	6.9%	5498	390	6.6%	5161	547	9.6%
53-手習	5361	357	6.2%	5312	381	6.7%	5200	451	8.0%
54-夢浮橋	5486	400	6.8%	5492	388	6.6%	5371	464	8.0%

表一 調査対象とした写本一覧

卷	日大本			池田本			大島本		
	仮名	漢字	漢字率	仮名	漢字	漢字率	仮名	漢字	漢字率
28-野分	6682	458	6.4%	6729	415	5.8%	6736	470	6.5%
29-行幸	11923	594	4.7%	10906	1039	8.7%	11542	788	6.4%
30-藤袴	5726	459	7.4%	5846	424	6.8%	5656	520	8.4%
31-真木柱	6658	360	5.1%	6410	471	6.8%	8867	842	8.7%
32-梅枝	5570	453	7.5%	5335	563	9.5%	5433	530	8.9%
33-藤裏葉	5355	469	8.1%	5701	333	5.5%	5416	489	8.3%
34-若菜上	5847	462	7.3%	5802	468	7.5%	5592	584	9.5%
35-若菜下	5585	510	8.4%	5498	553	9.1%	5606	541	8.8%
36-柏木	5323	347	6.1%				5262	349	6.2%
37-横笛	5630	349	5.8%	5834	249	4.1%	5429	445	7.6%
38-鈴虫	6054	418	6.5%	5902	485	7.6%	5702	590	9.4%
39-夕霧				5572	363	6.1%	5541	423	7.1%
40-御法	6239	237	3.7%	6042	332	5.2%	5663	507	8.2%
41-幻	6945	210	2.9%	6519	398	5.8%	6311	524	7.7%
42-匂宮	5810	498	7.9%	5635	564	9.1%	5181	827	13.8%
43-紅梅	5560	343	5.8%	5190	484	8.5%	5005	587	10.5%
44-竹河	5659	434	7.1%	5614	436	7.2%	5470	553	9.2%
45-橋姫	5292	209	3.8%	4948	361	6.8%	4950	375	7.0%
46-椎本	5472	502	8.4%	5577	425	7.1%	5310	574	9.8%
47-総角	5621	324	5.4%	5697	286	4.8%	5489	396	6.7%
48-早蕨	7712	404	5.0%	7320	550	7.0%	7353	589	7.4%
49-宿木	5858	403	6.4%	5613	428	7.1%	5583	549	9.0%
50-東屋	5849	345	5.6%	5598	401	6.7%	5504	495	8.3%
51-浮舟	5464	375	6.4%	5600	295	5.0%			
52-蜻蛉	5693	317	5.3%	5485	370	6.3%	5465	402	6.9%
53-手習	5534	260	4.5%	5536	334	5.7%	5198	426	7.6%
54-夢浮橋	5593	331	5.9%	5506	356	6.1%	5515	393	6.7%

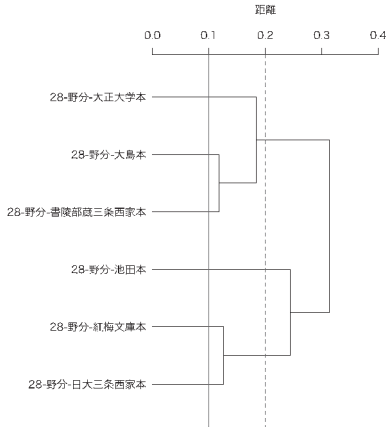
		書陵部本	保坂本	大正大学本	日大本	池田本	大島本
非常に似ている写本	紅	27	07		01,02,03,04		
	書			39			
	保			08			
	正						27,29
	日					05	
	池						
似ている写本	紅	01,02,07,17,18	01,08,10,13,14,16	03,07,08,17,18,23,24	07,22,24,25,26,27,28,30,31,32,33,35,36,37,41,42,44,45,46,48,49,50,51,52,53	32,38	17,18,19
	書		01,07	07,14,16,17,18,20,21,28,30,31,34,35,36,39,40,44,45,46,51,53	01,02,06,07,27	04,06	09,14,16,17,18,20,25,26,28,34,35,37,40,44,45,46,52
	保			07	01,07,12		
	正				03,07,24		06,14,16,17,18,20,28,34,35,40,44,45,46,47,50
	日					06,13,17,20,32,40,47	05
	池						05

表二 本文が「非常に似ている」写本(上段)と本文が「似ている」写本(下段)

表二 本文が「非常に似ている」写本(上段)と本文が「似ている」写本(下段)

図 各巻の写本間距離の樹形図

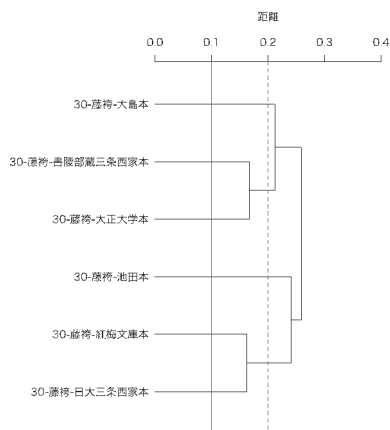
写本間関係は木構造として表され、「非常に似ている」と考えられる閾値である写本間距離を実線で、「似ている」と考えられる閾値である写本間距離を点線で表している。尚、一部グループを構成していない写本が存在する。これは写本間距離が0.1以上であり、このグループを構成していない写本は表記の点からは本文が極めて異なっていることを示している。



第二十八帖「野分」

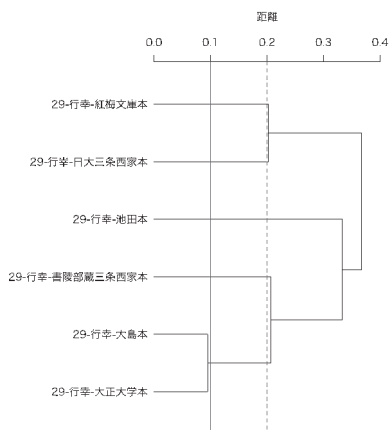
- ・ 日大本と紅梅本の写本間距離が相対的に近く、本文が「似ている」。
- ・ 書院部本と大島本の写本間距離が相対的に近く、本文が「似ている」。
- ・ これら二写本と大正大学本との写本間距離が近く、本文が「似ている」。

一一二一七 Ngram を用いた表記から見た紅梅文庫旧蔵本『源氏物語』の位置付け(2)



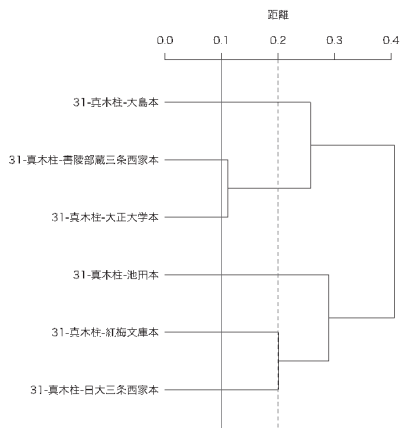
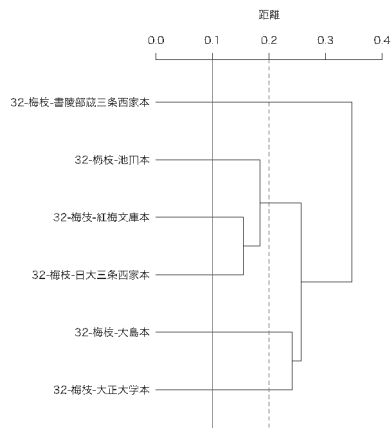
第三十帖「藤原」

- ・ 日大本と紅梅本の写本間距離が相対的に近く、本文が「似ている」。
- ・ 大正大学本と書陵部本の写本間距離が相対的に近く、本文が「似ている」。



第二十九帖「行幸」

- ・ 大正大学本と大島本の写本間距離が近く、本文が「非常に似ている」。



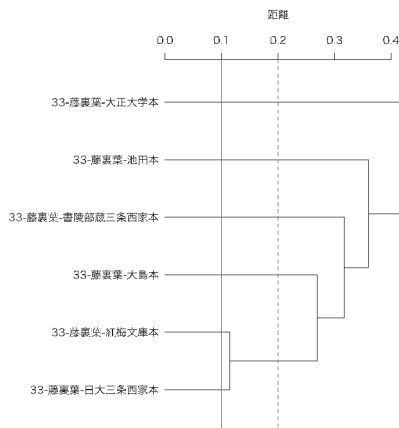
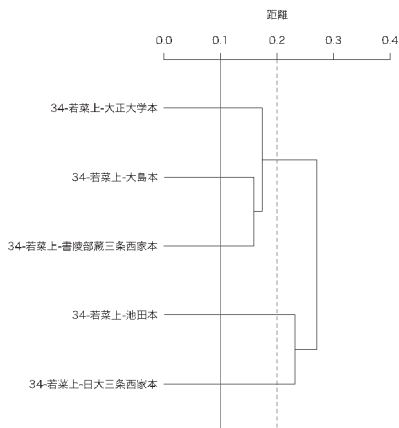
第三十一帖「真木柱」

- ・日本本と紅梅本の写本間距離が相対的に近く、本文が「似ている」
- ・大正大学本と書陵部本の写本間距離が相対的に近く、本文が「似ている」。

第三十二帖「梅枝」

- ・日本本と紅梅本の写本間距離が相対的に近く、本文が「似ている」。
- ・これら二写本と池田本の写本間距離が相対的に近く、本文が「似ている」。

一一二一七 Ngram を用いた表記から見た紅梅文庫旧蔵本『源氏物語』の位置付け(2)

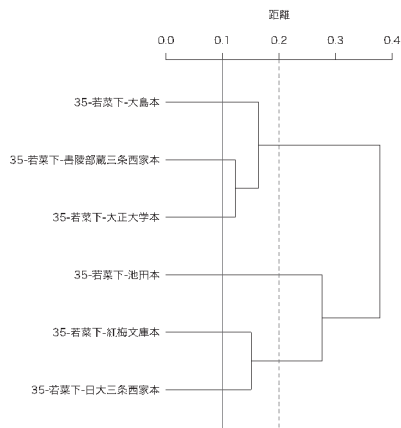
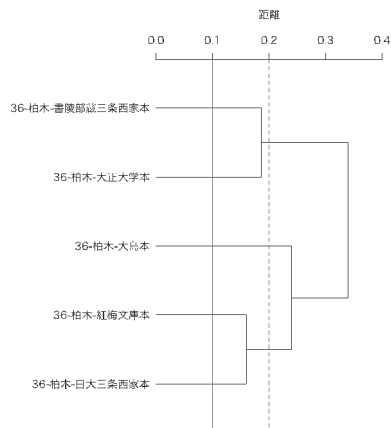


第三十三帖「藤裏葉」

- ・ 日本本と紅梅本の写本間距離が相対的に近く、本文が「似ている」。
- ・ 大正大学本は他の写本と比較して写本間距離が非常に遠い。

第三十四帖「若菜上」

- ・ 書院部本と大島本の写本間距離が相対的に近く、本文が「似ている」。
- ・ これら二写本と大正大学本の写本間距離が相対的に近く、本文が「似ている」。



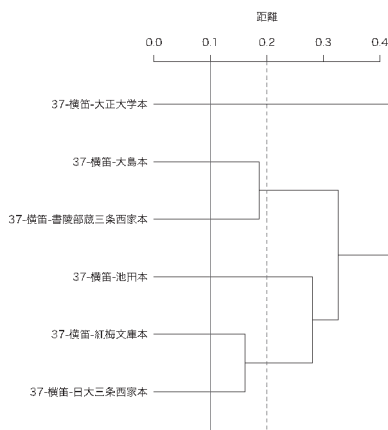
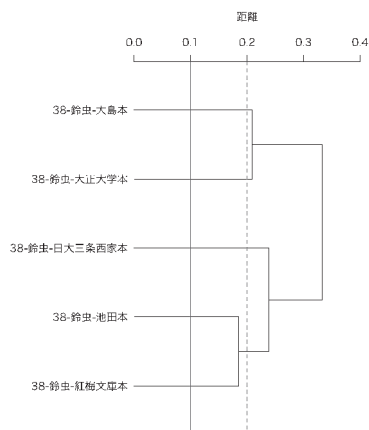
第三十五帖「若菜下」

- ・ 日本本と紅梅本の写本間距離が相対的に近く、本文が「似ている」。
- ・ 大正大学本と書陵部本の写本間距離が相対的に近く、本文が「似ている」。
- ・ これら二写本と大島本の写本間距離が相対的に近く、本文が「似ている」。

第三十六帖「柏木」

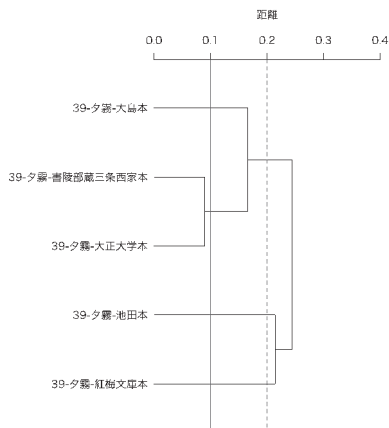
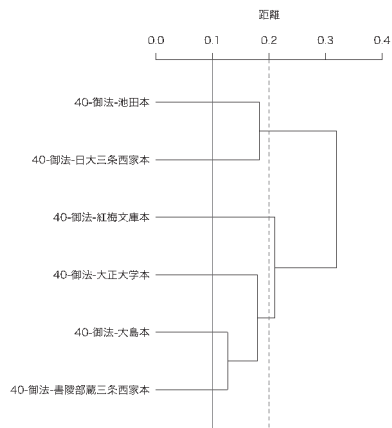
- ・ 日本本と紅梅本の写本間距離が相対的に近く、本文が「似ている」。
- ・ 大正大学本と書陵部本の写本間距離が相対的に近く、本文が「似ている」。

一一二七 Ngram を用いた表記から見た紅梅文庫旧蔵本『源氏物語』の位置付け(2)



第三十八帖「鈴虫」
・紅梅本と池田本の写本間距離が相対的に近く、本文が「似ている」。

第三十七帖「横笛」
・日本本と紅梅本の写本間距離が相対的に近く、本文が「似ている」。
・書院部本と大島本の写本間距離が相対的に近く、本文が「似ている」。
・大正大学本は他の写本と比較して写本間距離が非常に遠い。



第三十九帖「夕霧」

・大正大学本と書陵部本の写本間距離が近く、本文が「非常に似ている」。

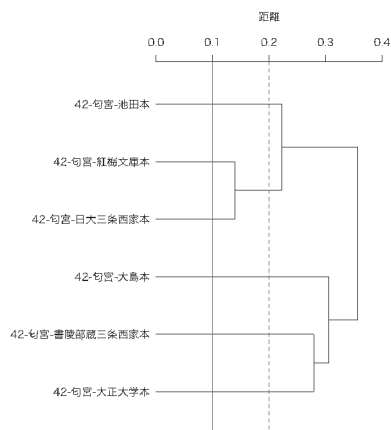
第四十帖「御法」

・書陵部本と大島本の写本間距離が相対的に近く、本文が「似ている」。

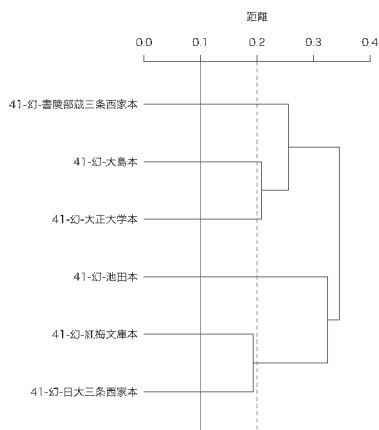
・これら二写本と大正大学本との写本間距離が相対的に近く、本文が「似ている」。

・日大本と池田本の写本間距離が相対的に近く、本文が「似ている」。

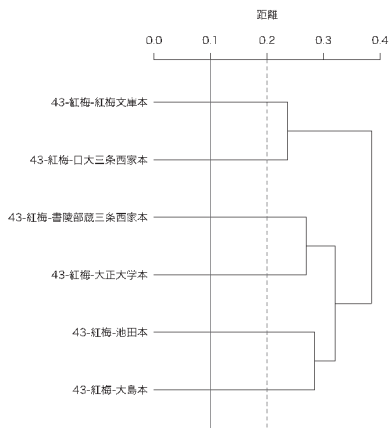
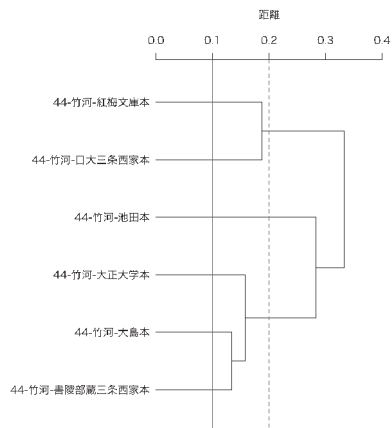
一一二七 Ngram を用いた表記から見た紅梅文庫旧蔵本『源氏物語』の位置付け (2)



第四十二帖「句宮」
・日本と紅梅本の写本間距離が相対的に近く、本文が「似ている」。



第四十一帖「幻」
・日本と紅梅本の写本間距離が相対的に近く、本文が「似ている」。



第四十三帖「紅梅」

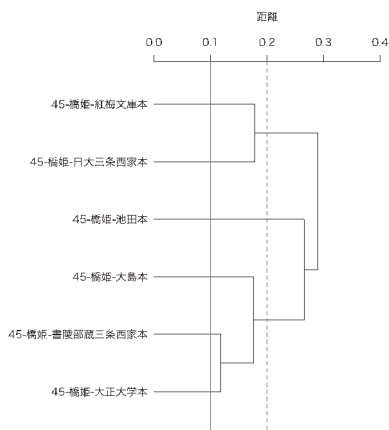
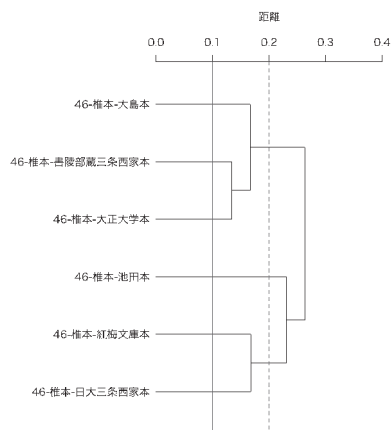
・写本間距離が近く、本文が「似ている」と言える写本は存在しない。

第四十四帖「竹河」

・書院部本と大島本の写本間距離が相対的に近く、本文が「似ている」。

・これら二写本と大正大学本との写本間距離が相対的に近く、本文が「似ている」。

・日大本と紅梅本の写本間距離が相対的に近く、本文が「似ている」。

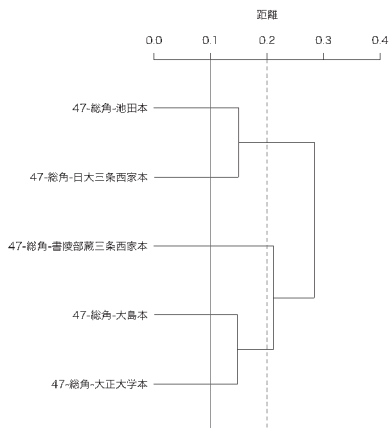
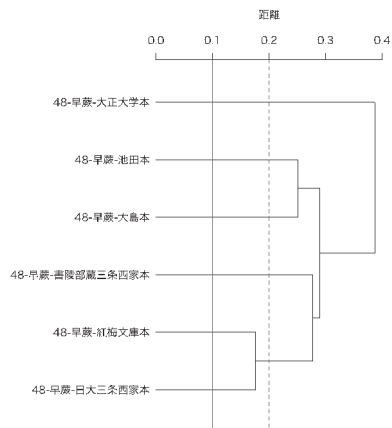


第四十五帖「橋姫」

- ・大正大学本と書陵部本の写本間距離が相対的に近く、本文が「似ている」。
- ・これら二写本と大島本との写本間距離が相対的に近く、本文が「似ている」。
- ・日大本と紅梅本の写本間距離が相対的に近く、本文が「似ている」。

第四十六帖「椎本」

- ・日大本と紅梅本の写本間距離が相対的に近く、本文が「似ている」。
- ・大正大学本と書陵部本の写本間距離が相対的に近く、本文が「似ている」。
- ・これら二写本と大島本との写本間距離が相対的に近く、本文が「似ている」。



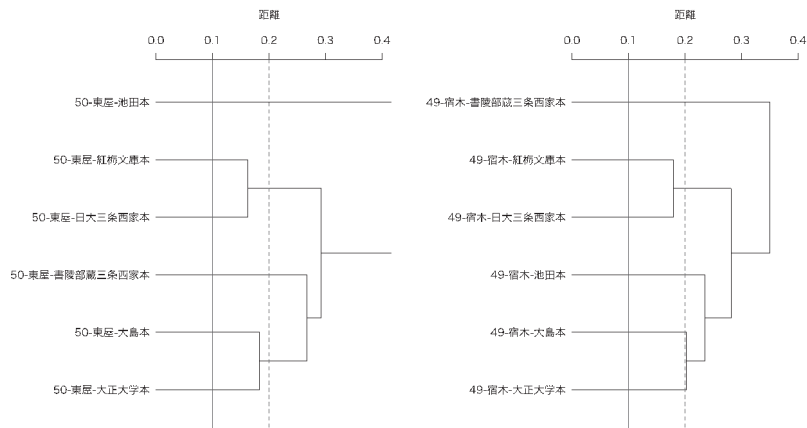
第四十七帖「総角」

- ・大正大学本と大島本の写本間距離が相対的に近く、本文が「似ている」。
- ・日大本と池田本の写本間距離が相対的に近く、本文が「似ている」。
- ・紅梅本は江戸時代に補写された写本のため除いている。

第四十八帖「早蕨」

- ・日大本と紅梅本の写本間距離が相対的に近く、本文が「似ている」。

一一二一七 Ngram を用いた表記から見た紅梅文庫旧蔵本『源氏物語』の位置付け(2)



第四十九帖「宿木」

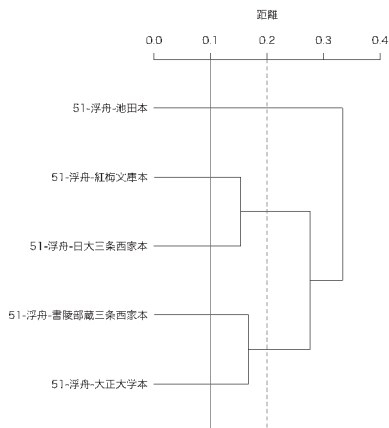
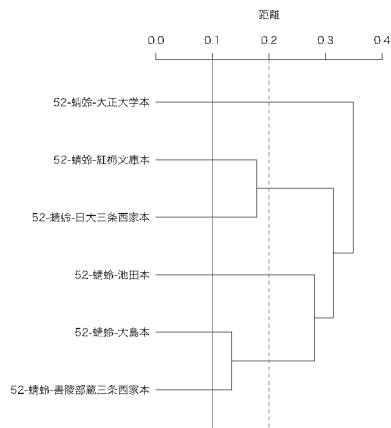
・日大本と紅梅本の写本間距離が相対的に近く、本文が「似ている」。

第五十帖「東屋」

・大正大学本と大島本の写本間距離が相対的に近く、本文が「似ている」。

・日大本と紅梅本の写本間距離が相対的に近く、本文が「似ている」。

・池田本は室町時代に書写された写本とされている。



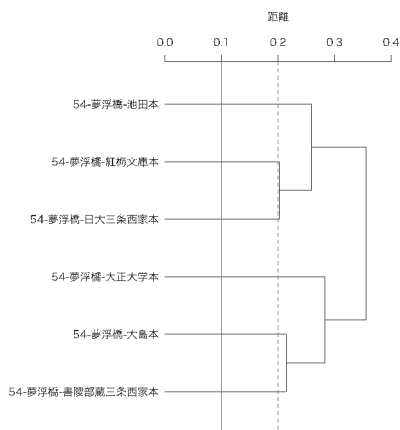
第五十一帖「浮舟」

- ・大正大学本と書陵部本の写本間距離が相対的に近く、本文が「似ている」。
- ・日本と紅梅本の写本間距離が相対的に近く、本文が「似ている」。

第五十二帖「蜻蛉」

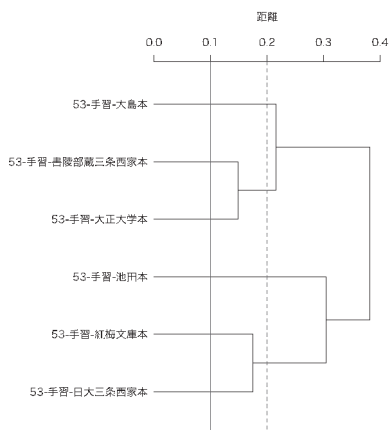
- ・書陵部本と大島本の写本間距離が相対的に近く、本文が「似ている」。
- ・日本と紅梅本の写本間距離が相対的に近く、本文が「似ている」。
- ・池田本は南北朝時代に書写された写本とされている。

一一二七 Ngram を用いた表記から見た紅梅文庫旧蔵本『源氏物語』の位置付け(2)



第五十四帖「夢浮橋」

・写本間距離が近く、本文が「似ている」と言える写本は存在しない。



第五十三帖「手習」

・日大本と紅梅本の写本間距離が相対的に近く、本文が「似ている」。

・大正大学本と書陵部本の写本間距離が相対的に近く、本文が「似ている」。

・池田本は南北朝時代に書写された写本とされている。

